

静岡県中部眼科医会総会および茶話会特別講演会開催案内

(日本眼科学会専門医制度生涯教育事業番号 19993)

向春の候、皆様におかれましては、益々、ご健勝のこととお喜び申し上げます
さて、令和6年度の「静岡県中部眼科医会総会および茶話会特別講演会」を下記の要領で開催致します。

ご多忙とは存じますが、奮ってご参加賜りますようよろしくお願い申し上げます。

謹白

日 時：2025年3月22日(土)

開催方法：現地開催

会 場：レイアップ御幸町ビル7-D 静岡市葵区御幸町11-8 TEL:054-269-5070

会 費：医師;2000円 視能訓練士等眼科コメディカル;1000円 その他;5000円

* 会場に直接お越しいただき、参加費の支払い、専門医の単位受付をお願いします。

総 会(15:30 ~ 16:00) (静岡県中部眼科医会の先生方)

特別講演(16:00 ~ 18:00)

1. 『眼腫瘍診療の未来』 16:00~17:00

九州大学大学院医学研究院 眼病態イメージング講座 講師 秋山 雅人 先生

2. 『プレミアム眼内レンズの最新知見』 17:00~18:00

ツカザキ病院 眼科 医長
ASUCA アイクリニック仙台マークワン 責任執刀医
野口 三太朗 先生

※懇親会：ホテルアソシア静岡 梨杏 (着座型式で行います) 参加費 6000円

主 催：静岡県中部眼科医会
開催責任者：高良俊武
世話人：石川浩平、岡崎嘉樹、大岩和博
問合せ先：kouraganka@sand.ocn.ne.jp

.....

下記へご記入いただき、3月14日までに、054-364-1093 までFAXをお願い致します。

()参加 ()不参加

()懇親会参加希望

ご施設名 _____

ご芳名 _____

『 眼腫瘍診療の未来 』

九州大学大学院医学研究院 眼病態イメージング講座 講師 秋山 雅人 先生

抄録

全ての眼部悪性腫瘍は希少がんであり、診療経験が豊富な眼科医でも遭遇することは稀である。診断は、主に生検による病理組織診断となるが、そのためには日常眼科診療で腫瘍を疑う必要がある。実際には、腫瘍を疑いながらも経過観察が行われ重症化した状態で専門施設へ紹介されることは少なくはない。また、治療は外科的治療が主体であるが、全身に転移すると有効性に関するエビデンスがある全身化学療法は限られる。演者は、アジア最大規模のバイオバンクであるバイオバンク・ジャパンの解析に従事した後、眼腫瘍専門診療を標榜する九州大学眼科で、眼腫瘍診療を行う傍ら眼部悪性腫瘍のゲノム解析や人工知能を用いた研究を行っている。本講演では、現在の眼腫瘍診療の問題点について整理し、遺伝情報やAIについて最新の研究成果を紹介し、これらが眼腫瘍診療の未来にどのような変革をもたらすかについて考察する。

ご略歴:

2008年 山口大学医学部医学科 卒業
2008年 九州医療センター 初期臨床研修医
2010年 九州大学病院 眼科勤務
2011年 飯塚病院 眼科勤務
2012年 理化学研究所 ゲノム医科学研究センター
基盤技術開発研究グループ 研修生
2015年 理化学研究所 統合生命医科学研究センター
統計解析研究チーム リサーチアソシエート
2018年 九州大学大学院医学研究院眼科学分野 特任講師
2019年 九州大学大学院医学研究院 眼病態イメージング講座 講師
現在に至る。

受賞歴:

- ・第5回 わかもと先進眼科医療研究会:Gold award, 2015年10月
- ・2016 Charles J. Epstein Trainee Awards for Excellence in Human Genetics Research: Semifinalist, (American Society of Human Genetics), 2016年7月
- ・第8回 理化学研究所 研究奨励賞, 2017年3月
- ・日本眼科学会 学術奨励賞, 2020年4月
- ・文部科学大臣表彰 若手科学者賞, 2021年4月
- ・日本人類遺伝学会 奨励賞, 2021年
- ・第15回 田野 Young Investigative Award (日本網膜硝子体学会), 2022年12月
- ・Best Scientific Paper Award, the 39th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress, 2024年2月
- ・Alcon Japan Award for Young Investigators, 2024年4月

抄録

眼科分野で最も急速に進化しているのは、屈折白内障手術の分野かもしれない。白内障手術は、極小切開技術の進歩と第6世代眼内レンズ(IOL)計算式の精度向上により、術後の屈折値の予測が格段に向上した。このため、白内障手術は単なる視力回復手術から、屈折矯正手術としての側面が強くなってきた。

乱視矯正が可能なトーリック IOL の普及に加え、老視矯正 IOL の登場により、遠方視力だけでなく近方視力も同時に改善できるようになった。最初に登場した二焦点眼内レンズから始まり、現在では三焦点眼内レンズが主流となりつつある。特に、回折格子のパターン変更は驚異的で、PanOptix、TECNIS Synergy、TECNIS Odyssey、Vivinox Gemetric、Fine Vision、Intensity などが回折レンズの最前線を走っている。

焦点拡張 IOL としては、Eyhance、Impress、RayOne EMV、ArtIOLs、IC-8 などがあり、多焦点眼内レンズの選択肢も広がっている。さらに、調節性眼内レンズの開発も進んでおり、より自然な視力を提供する技術が登場している。

また、近年注目されているのは Modular Device だ。これは、最先端の技術を駆使したデバイスで、現在は未承認のものが多いが、その発展は見逃せない。

今回の講演では、老視矯正眼内レンズや Modular Device など、今後屈折白内障分野で中心となるであろうデバイスについて、その視機能や特徴を中心に紹介する。最新の技術とその応用について、講演したいと思う。

ご略歴:

2006 年 東北大学医学部卒業

2006 年 いわき市立磐城共立病院

2008 年 東北大学病院眼科

2010 年 石巻赤十字病院眼科

2014 年 仙台市立病院眼科

2014 年 特定医療法人 三栄会 ツカザキ病院眼科

2022 年 ASUCA アイクリニック仙台マークワン主任執刀医